

NDPIリスク因子予知分析 看護師による静脈注射 \* 商用無断転載を禁ず  
(著)国立病院機構仙台医療センター

	起りうる傷害(合併症) →	まとめ	血腫	感染	配合変化	RSD(反射性交感 性興奮現象)	循環動態の変 化	自己抜去	血管外漏出	異物混入
傷害について	1 (直接原因)									
	2 (メカニズム/間接原因)									
	3 傷害の発生頻度	(調査結果、文献情報、または推定)								
	4 傷害の重大さ	(注①) *								
安全対策の概要	5 傷害を起こさないための留意事項	(コソ/してはいけないこと)		清潔操作	配合変化の知識	RSDの知識、穿刺の避ける場所			逆流確認	
	6 傷害が発生したことを発見する手段		穿刺部の腫脹、患者の訴え	刺入部発赤、患者の訴え	高濃の白濁、褐色変化	患者の訴え(電撃感)			刺入部の発赤・腫脹・疼痛	
	7 傷害発生時の対応方法/拡大防止措置		抜針、圧迫止血	抜針、冷電法	インジケルター	抜針、主治医報告		止血、断端部確認(体内残量)	抜針せず、用手吸引、主治医報告	
	8 発生時の適切な対応を可能にするための備え/予防措置	(傷害の発生を想定してあらかじめ準備しておくべきこと)					整形外科受診	救急カート	スロバ皮下注	

<安全な実施手順と遵守事項>

	起りうる傷害(合併症) →	まとめ	血腫	感染	配合変化	RSD(反射性交感 性興奮現象)	循環動態の変 化	自己抜去	血管外漏出	異物混入
	実施手順(作業事項・操作事項)	総合的遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)
	事前準備	指示を受ける 薬剤請求 薬剤受領 物品準備	指示棒を立てる							
	薬剤準備	手洗い	清潔操作							注射針の刃面が注射薬の自盛りと同一方向に向けハザードシールドへ垂直に刺し、ゴム栓が注射器内に落ちるのを防止する。
		薬剤準備		酒精綿で包むようにすると、アンプルが針に指を傷つけるのを防ぐ	配合変化を起こす薬剤リスト	薬剤名の3回確認(取るとき、吸うとき、捨てるとき) 6Rの確認				アンプルの首の部分に酒精綿を当て、付着している縮膜や異物が、アンプルが針にアンプル内に落ちるのを防
	患者準備	患者へ説明 注射内容の説明 トイレ誘導 利き側確認	患者確認 穿刺中の急激な体動は組織を損傷することがあるため、穿刺部位に立った安楽な体位をとる							
	穿刺準備	手洗い 脈血 消毒	手を握ると前腕の筋肉が収縮し、脈血部位に引っ張られ、血管が緊張する 酒精綿で消毒	肘関節より4~5cm上(中腕側)に脈血帯をし、指を内側にして手多指とせよ アルコール類ではオセハンで消毒。作成後24時間以内で使用						
	静脈穿刺	留置針穿刺 内筒抜去 脈血帯を外す	逆流確認 血管の走行に沿ってさらに5~7mm刺入する 比位に入れ針刺し防止する	静脈穿刺部位より1cmくらい手前の皮膚に対して20°~30°の角度で注射針を挿入し、血管抵抗を感じたら、やや角度を小さくして静脈内に入れる		手首周囲の穿刺は避ける		利き腕や関節の屈曲部は避ける		
	固定	逆流確認 ルートにつなぐ 絆創膏固定	逆流確認 ルートにつなぐ 絆創膏固定					実働中の体動を妨げないように固定する		

～続き＜安全な実施手順と遵守事項＞											
	作業区分(プロセス)	起りうる傷害(合併症) → 実施手順(作業事項・操作事項)	まとめ 総合的遵守事項(留意事項)	血腫	感染	配合変化	RSD(反射性交感 性興奮状態)	循環動態の変 化	自己抜去	血管外漏出	異物混入
				遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)	遵守事項(留意事項)
	薬液注入	薬液注入	6Rの確認					輸液の量が多すぎると循環血液量が増加し、心・肺・腎機能への負担が大きくなる。輸液速度が適切でない、薬液作用が得られなかったり、副作用が現れる危険が			
	観察	薬剤による効果の確認 薬剤による副作用の確認	チートスクールの位置確認						終了時刻を告げる		
	記録	手洗い 実施記録									
	その他										

＜安全な研修環境＞											
		起りうる傷害(合併症) →	まとめ	血腫	感染	配合変化	RSD(反射性交感 性興奮状態)	循環動態の変 化	自己抜去	血管外漏出	異物混入
1	研修・指導計画で考慮すべき事項										
2	手技訓練を実施する事項			採血							
3	その他(シミュレーターの活用や開発要素など)										
4	病棟・院内の体制										
5	使用する資機材の標準化										
6	実施するどよい調査と調査方法										

※ 重大さのスコアとその基準	
5	死亡する確率がたぶん10%以上
4	死亡する確率は多分10%以下だが死亡する例がある
3	死亡することはまずないが相当な治療を必要とする
2	死亡することはまずないが何らかの治療手段が必要
1	死亡することはまずないが経過観察が必要